過去の豪雨災害を顧みて
～江の川上流域～

昭和47年7月豪雨から40年

国土交通省
中国地方整備局
三次河川国道事務所

昭和47年7月豪雨による馬洗川の破堤箇所（三次市十日市地区）

江の川では、古くから豪雨による被害がたびたび発生しており、
昭和47年7月豪雨では、馬洗川において堤防が破堤するなど、各地に甚大な被害をもたらしました。
近年では、平成18年、平成22年の豪雨において、江の川沿川で内水・外水の被害が発生しているほか、
平成22年7月には近年頻発するゲリラ豪雨により、
西城川流域の庄原市において大規模な土砂災害が発生しています。
これらの豪雨被害を踏まえ、三次河川国道事務所では、江の川流域の自治体と連携を図り、
地域住民の方々の理解と協力を得ながら、河川整備を推進しています。

目次

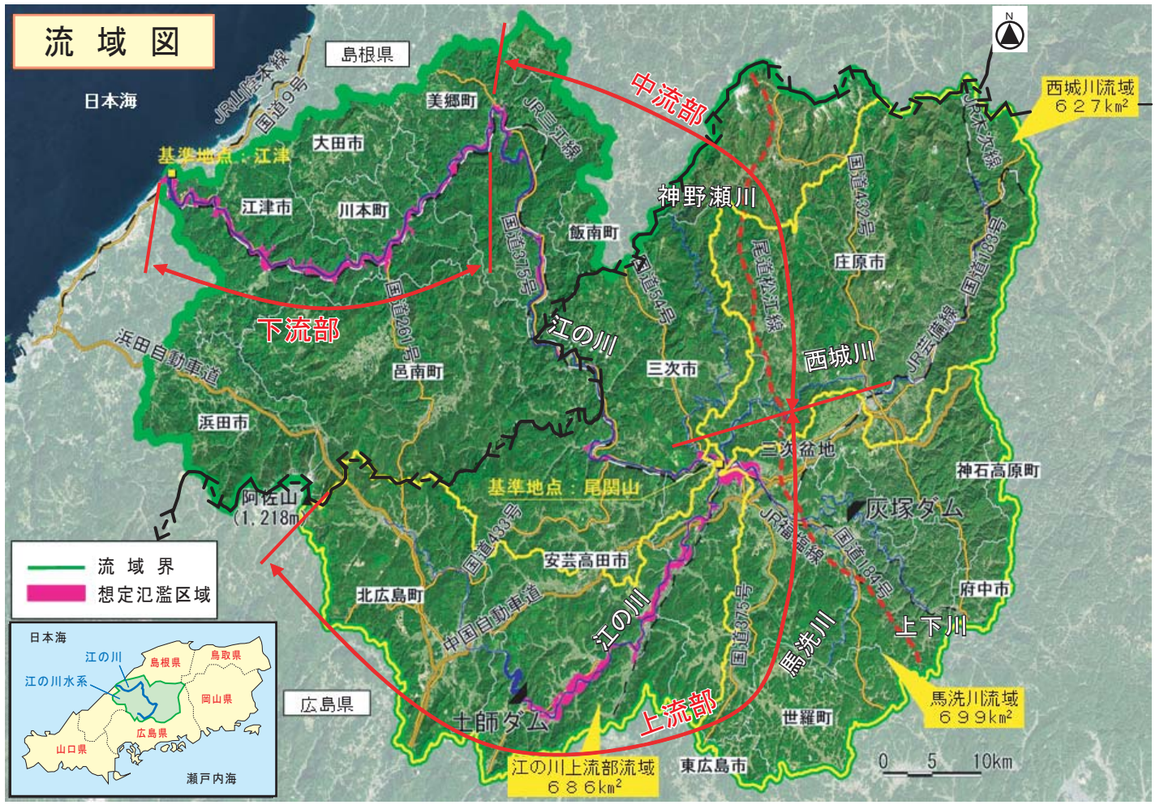
江の川流域の概要 ・・・・・ 3
昭和47年7月豪雨（梅雨前線） ・・・・・ 5
昭和58年7月豪雨（梅雨前線） ・・・・・15
平成11年6月豪雨（梅雨前線） ・・・・・17
平成18年7月豪雨（梅雨前線） ・・・・・19
平成18年9月豪雨（台風13号） ・・・・・23
平成22年7月豪雨（梅雨前線） ・・・・・27
平成22年庄原市土砂災害 ・・・・・31
江の川（上流）の河川整備 ・・・・・35

平成22年庄原市土砂災害　被災した県道中迫川北線（庄原市川北町）

江の川流域の概要

江の川は、北広島町の阿佐山に水源を発し、途中三次市において馬洗川、西城川、神野瀬川を三方より合わせ、江津市において日本海に注ぐ、幹川流路延長194km、流域面積3,900km^2 の一級河川です。

また、江の川は、中国山地を貫く中国地方最大の河川で「中国太郎」の別名を持つ雄大な川として中国地方中央部における社会、経済、文化の基盤をなす象徴的な存在となっています。



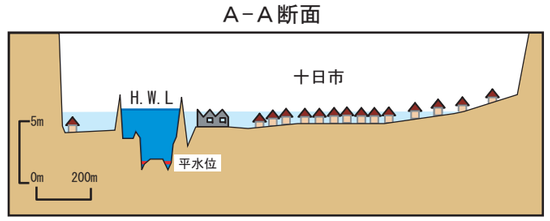
流域及び氾濫域の諸元

流域面積（集水面積）	：3,900km^2（広島県内2,640km^2，島根県内1,260km^2）
幹川流路延長	：194km
流域内人口	：約18.4万人
想定氾濫区域面積	：約105km^2
想定氾濫区域内人口	：約4.9万人
想定氾濫区域内資産額	：約1兆1,426億円
流域内市町（国管理区間）	：島根県（江津市、川本町、邑南町、美郷町） 広島県（三次市、安芸高田市）

上流部

江の川･馬洗川･西城川の三川が合流する三次盆地から上流部は、築堤河道のため、ひとたび破堤すると流水が溜まりやすい地形にあります。

三次盆地には、人口・資産が集中しているため、氾濫時には甚大な被害が発生してしまいます。

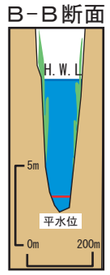


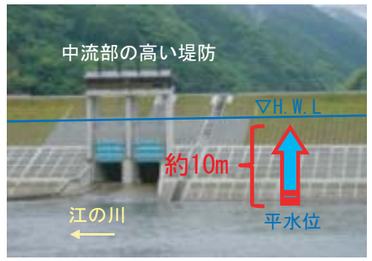
横断図（140k付近）

中流部

中流部は山間狭隘部を流れるため、洪水が起きると水位が急激に上昇します。

ひとたび大きな洪水が起きると平水位からの水位上昇が10mを超えることもあります。



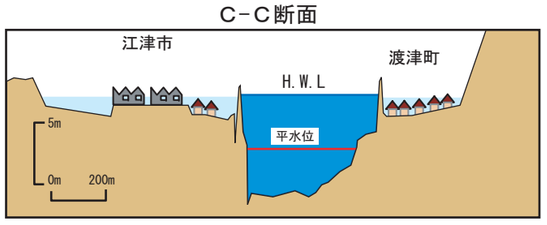


横断図（80k付近）

下流部

河口部の江津市街地には人口･資産が集中しており、市街地の大部分は、地盤高が江の川の計画高水位(H.W.L)よりも低いため、氾濫時には甚大な被害が発生してしまいます。

河口部より上流は、山間狭隘部の河岸段丘に小集落が点在し、計画高水位より低い平地にも家屋が点在しています。



横断図（1k付近）

昭和47年7月豪雨　昭和47年（1972）7月9日～12日

昭和47年7月豪雨　概　要

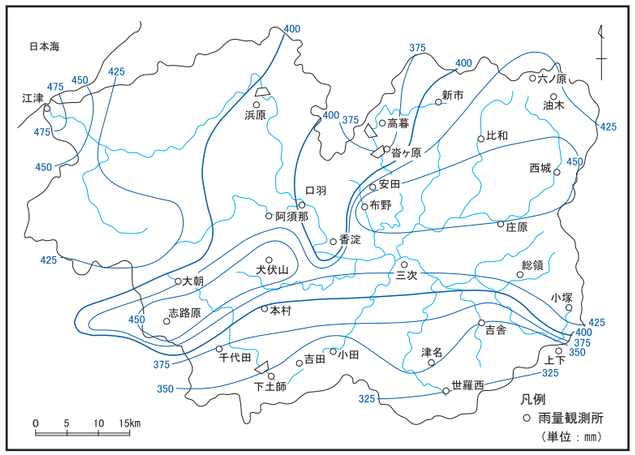
三次市十日市地区　馬洗川の破堤箇所

昭和47年（1972）7月9日から降り始めた梅雨前線の影響による強い雨は、断続的に12日まで続き、江の川上流域では特に11日に集中して強雨となりました。各地の時間雨量は、西城川油木観測所で11日に46㎜を記録したのを始め、三次、千代田で40㎜以上の記録となりました。

7月10日～12日の江の川上流域における出水状況は、ピークが繰り返す2山型の性状を示しており、1回目のピーク時には、ほとんどの水位観測所で警戒水位を超えることとなりました。

水位はその後下降するかと思われましたが、11日18時頃再び上昇に転じ、南畑敷を除く地点が軒並み1回目を上回る水位を記録しました。これら2回の出水による最終到達水位は、尾関山13.20m、南畑敷6.40m、三次6.60mなど、従来の記録を大幅に上回るものとなりました。

このため、流域の被害は甚大となり、三川が合流する三次市街地においては、馬洗川左岸十日市地区の2箇所で堤防が越水破堤、右岸の三次地区他各所で堤防越水という状況となるなど、各地に大きな被害をもたらしました。



●昭和47年（1972）7月9日9時～12日9時の降雨量分布

●一般被害情報

区　分	江の川上流域		
	三次市	安芸高田市	その他
死者（人）	9	0	8
行方不明（人）	1	1	1
負傷者（人）	38	2	21
床上浸水（棟）	2,540	479	1,033
床下浸水（棟）	2,365	774	2,685
全壊・流失（棟）	108	20	78
半壊（棟）	1,806	116	333

その他：庄原市、北広島町、世羅町、府中市
昭和47年7月豪雨災害誌（広島県）

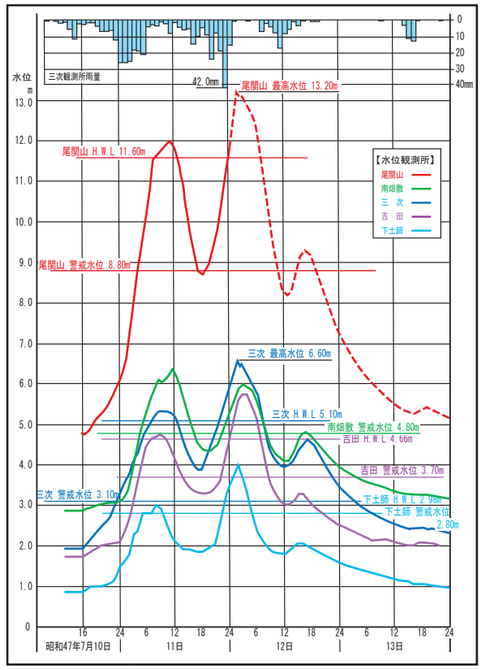
昭和47年7月豪雨　災害状況

三次市役所庁舎屋上から東側を望む　（三次市提供）

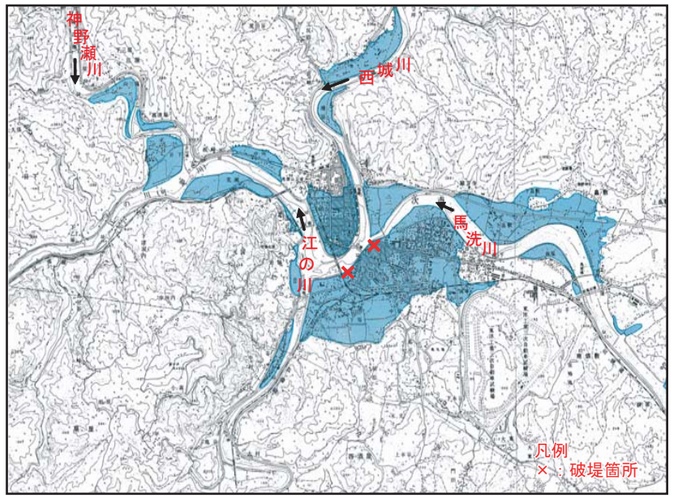
三次市十日市地区　（三次市提供）

三次市三次町寺戸地区　（三次市提供）

馬洗川の堤防決壊により大きな被害を受けた上本町商店街　（三次市提供）



●昭和47年7月豪雨の出水記録



●昭和47年7月豪雨の浸水状況（三次市街地）

昭和47年7月豪雨　災害状況

増水時

旧建設省三次工事事務所（三次市十日市地区）

平常時

増水時

三次市十日市地区（胡子町）

平常時

増水時

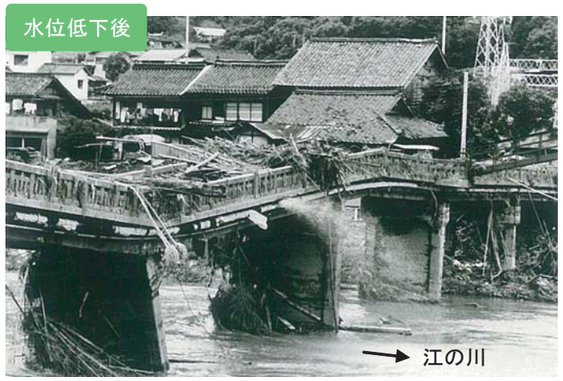
三次市十日市地区（京蘭寺）

平常時

増水時

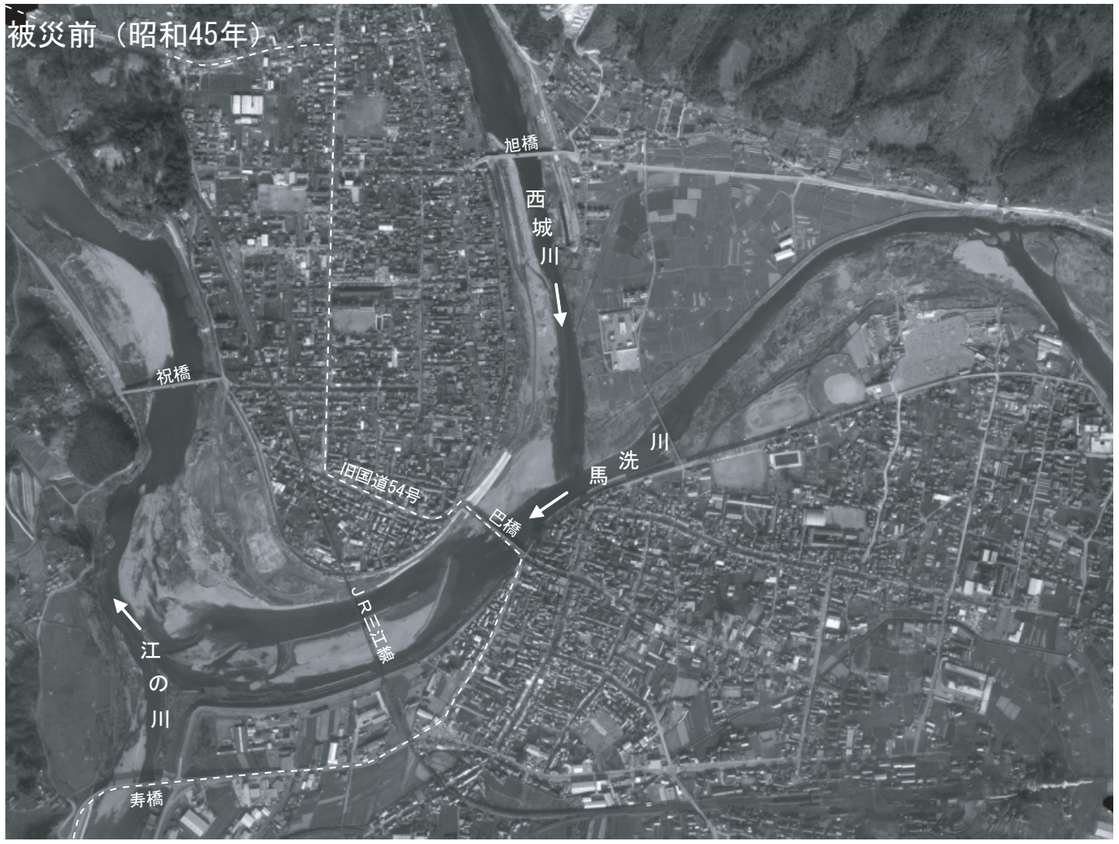
冠水した粟屋橋　（三次市提供）

水位低下後

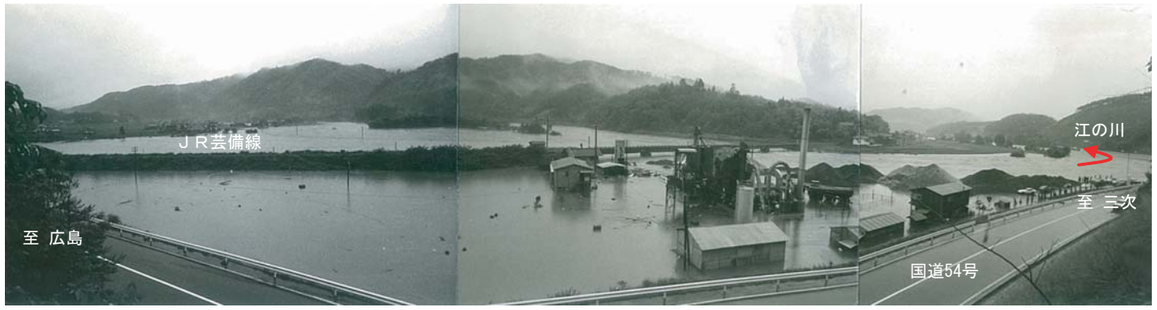


落橋しかけた粟屋橋　（三次市提供）

昭和47年7月豪雨　被災前と現在の三次市市街地



昭和47年7月豪雨　災害状況



三次市青河町　株式会社NIPPO三次合材工場　（末岡一登氏提供）

安芸高田市甲田町下甲立　（湧永薬品株式会社提供）

安芸高田市甲田町瀬戸地区　（安芸高田市提供）

昭和47年7月豪雨　災害状況

安芸高田市甲田町上甲立　（安芸高田市提供）

旧国道54号（安芸高田市甲田町上甲立）

国道54号（安芸高田市吉田町大浜地区）

旧久保橋（安芸高田市八千代町下土師地区）

旧作木中学校の浸水（三次市作木町港地区）

三次市作木町港地区

アーマーレビーによる堤防強化（三次市十日市地区）

昭和47年7月豪雨では馬洗川左岸の2カ所の堤防が破堤し、三次市街地の多くが浸水するという大きな被害が発生しました。

昭和47年7月豪雨での被災を踏まえ、国土交通省では災害復旧に伴う河川改修を促進し、堤防・護岸を概成させるとともに、洪水が堤防を越水した場合に備え、「アーマーレビー工法」による堤防強化を平成2年度から9年度にかけて実施しました。

昭和47年7月豪雨による三次市十日市地区破堤の状況

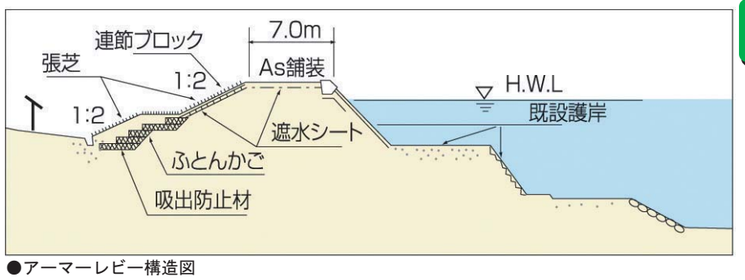
破堤箇所復旧状況（アーマーレビー施工前）

アーマーレビー施工後の様子

【アーマーレビー】

"アーマーレビー"の"アーマー(armour)"は英語で鎧兜や防護具・外装を意味し、"レビー（levee)"は同じく英語で堤防を意味します。アーマーレビーとは、文字通り堤防によろいを施し補強するものです。

アーマーレビーは堤防の川側の法面はもちろん、天端・川裏側の法面にも補強対策を施し堤防の機能強化を図っています。天端はアスファルト舗装により、雨水の浸透防止と越水による堤体の侵食を防止します。川裏側法面には可撓性に富む連節ブロックを、法尻部にはふとんかご・吸出防止材をそれぞれ施工し、越水流による洗掘防止を図っています。また、法面は、雨水による法面の浸食防止と、環境面への配慮から張芝としています。



●アーマーレビー構造図

施工状況

ふとんかごの堤内への埋め込み準備

川裏法面への張芝施工状況

堤防天端への遮水シート施工状況

アーマーレビー完成時（平成9年度）

港地区整備事業（三次市作木町）

増水時

昭和47年7月豪雨時の状況

平常時

平常時の港地区

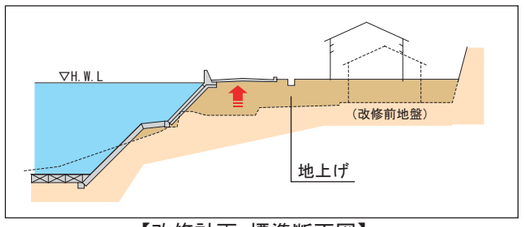
三次市作木町の港地区は、作木町の中心地で江の川を利用した舟運業又林産業等により栄えてきましたが、その地形的制約から過去幾度となく水害に見舞われ洪水との戦いが繰り返された地域です。

昭和47年7月の豪雨では、港地区全体戸数96戸のうち当時の作木村役場・作木中学校を含めて85戸が被災し、家屋田畑への被害は激甚を極めました。

このような状況から、昭和52年度から平成元年度にかけて、地区の地盤をそのまま計画高水位(H.W.L)まで地上げして改修するいわゆる「地上げ方式」による整備事業を、国土交通省(旧建設省)・広島県・旧作木村の3者が協力して行いました。

この地上げ方式は後に「特定河岸地水害対策事業」を経て、「水防災対策特定河川事業」の実施例として、地域づくりを取り込んだ治水事業の礎となりました。

三次市作木町 港地区



【改修計画 標準断面図】

実施後（平成23年3月）

実施前（昭和52年）

実施後（平成4年）

香淀地区整備事業（三次市作木町）

昭和47年7月豪雨時の状況

平常時の香淀地区

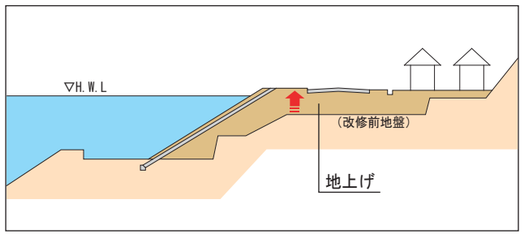
三次市作木町の香淀地区は、江の川本川とその右岸支流香淀川の合流部に位置しており、江の川と背後の山地にはさまれた狭隘地区です。

この地区は、昭和47年に発生した7月豪雨災害において、港地区と同様に、大部分の家屋が浸水、田畑は冠水となり、また、その後昭和58年の出水等度重なる被害が生じ、改修が切望されていた地区でした。

この地区の改修計画は、地域的条件その他の理由により、いわゆる築堤方式とすることが必ずしも妥当とは言い難く、計画上懸案事項となっていましたが、平成5年度より本格的な検討を開始し、平成6年度に改修の方針及び計画の概要が定まり、平成7年度事業着手し、平成13年度に完成しました。

改修方式は、堤内地の盛土を行うものとして宅地等水防災対策事業（広島県）・国道375号の改良（広島県）及び旧作木村単独事業と直轄河川改修事業の合併事業として実施しました。

実施前（平成4年4月）



【改修計画 標準断面図】

実施後（平成13年9月）

実施後（平成23年3月）

梶矢地区整備事業（安芸高田市高宮町）

江の川の増水によって水没状態となり川舟でやっと連絡した梶矢地区の状況（昭和47年7月）

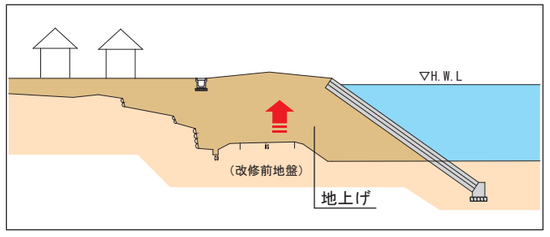
安芸高田市高宮町の梶矢地区は、江の川本川とその左岸支流長瀬川の合流部に位置しています。当地区は、古くから幾度となく洪水に見舞われており、特に昭和47年7月の洪水では、家屋が浸水し、田畑等にも大きな被害が出ました。また、近年においても昭和58年7月、昭和60年7月など、度々洪水に見舞われていました。

同地区は、江の川と山々に囲まれた山間狭隘部に位置しており、従来の堤防方式で改修を実施した場合、農地の多くを堤防用地としなければならず、経済基盤や地域コミュニティへの影響は著しいものがあります。

こうした弊害を解消するため、宅地の盛土、家屋の嵩上げ等により治水安全度を確保することとした「水防災対策特定河川事業」により、平成14年度から平成17年度にかけて改修事業を行いました。

実施前（平成14年4月）

実施後（平成18年12月）



【改修計画 標準断面図】

実施後（平成24年5月）

昭和58年7月豪雨　昭和58年（1983）7月22日～23日

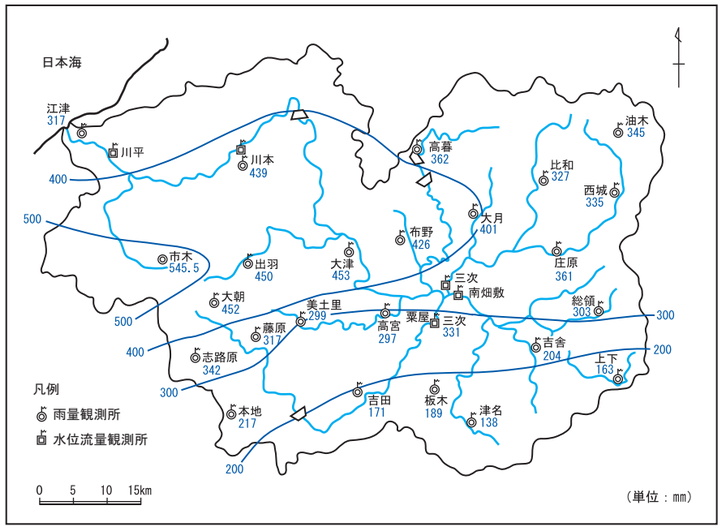
昭和58年7月豪雨　概　要

寿橋より下流を望む（三次市）

昭和58年（1983）7月22～23日の豪雨は、「昭和47年7月豪雨」と同様に梅雨前線の活動によるもので、「昭和47年7月豪雨」以来の大出水となりました。

島根県西部から広島県北部、山口県北部にかけて局地的な豪雨となり、22日夜から23日朝にかけて島根県西部を中心に時間雨量50㎜～90㎜の強い雨が断続的に、同じく広島県北部では20㎜～50㎜の強い雨が降りました。

このため中小河川は大きな出水となり、各所で越水氾濫しました。江の川上流域では、三次市寺戸地区をはじめ数カ所で浸水や内水による被害が発生しました。

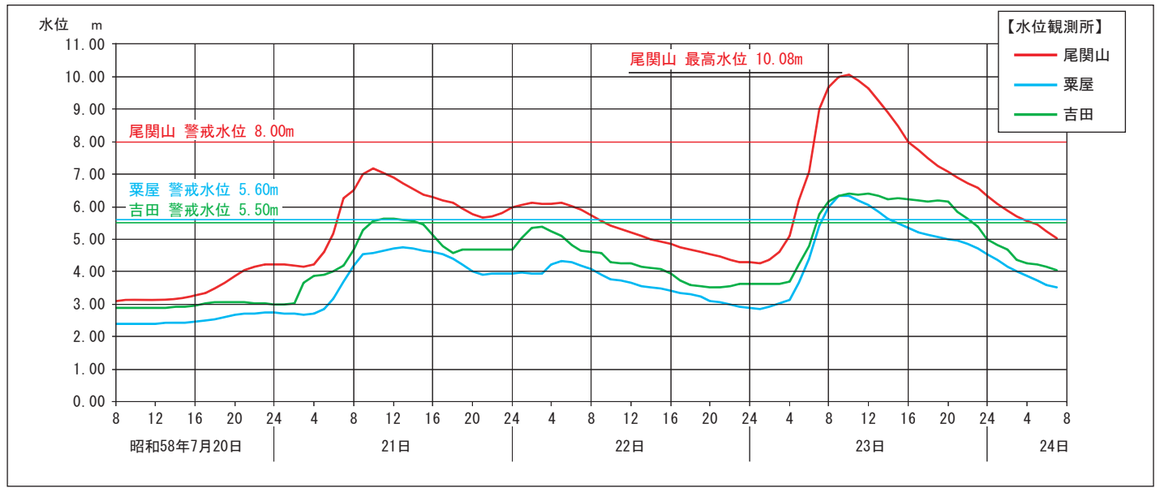


●昭和58年（1983）7月20日～22日の江の川流域降雨量分布

●一般被害情報

区　分	広島県		
	三次市	安芸高田市	その他
死者（人）	0	0	0
行方不明（人）	0	0	0
負傷者（人）	1	1	0
床上浸水（棟）	35	0	20
床下浸水（棟）	158	82	256
全壊・流失（棟）	4	1	1
半壊（棟）	3	0	0

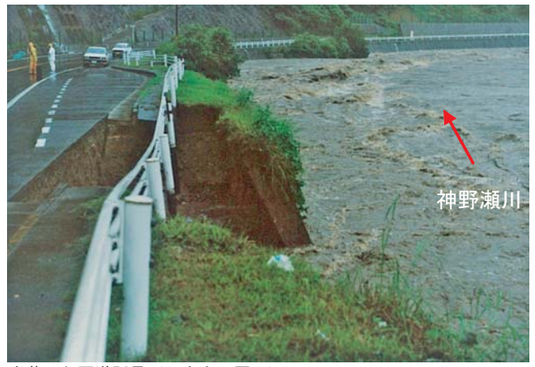
その他：庄原市、北広島町
昭和58年7月豪雨災害誌（建設省中国地方整備局）



●昭和58年7月豪雨の出水記録

昭和58年7月豪雨　災害状況

三次市三次町寺戸地区



崩落した国道54号（三次市三原町）

三次市作木町門田

江の川 梶矢堤防123k100（左岸）より上流を望む

江の川支川作木川（作木町港地区）

三次市作木町大津

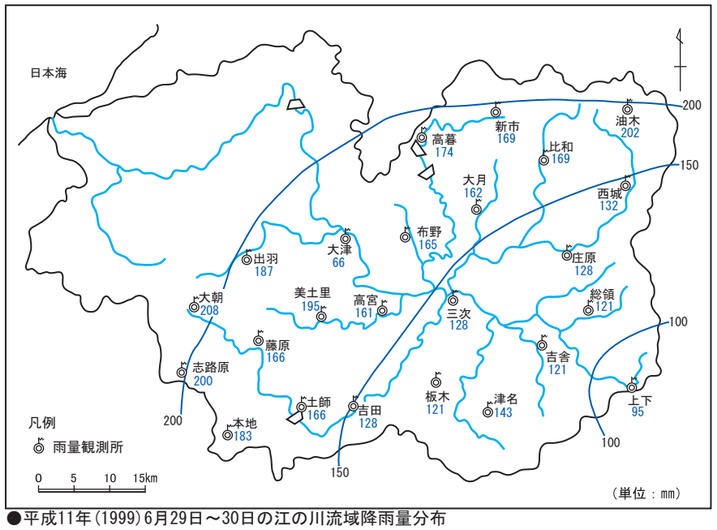
平成11年6月豪雨　平成11年（1999）6月29日

平成11年6月豪雨　概　要

寺戸堤防より水道橋を望む

平成11年6月29日の豪雨は、梅雨前線が西日本まで北上し南から暖かく湿った空気が流れ込んで大気の状態が不安定となったことで、前線の活動が強まり大雨をもたらしました。

梅雨前線の北上により、29日2時頃より降り始めた雨は、梅雨前線の活動が活発となった7時頃より強くなり、19時頃まで強い雨が続きました。江の川の水位は、吉田水位観測所で29日15時に警戒水位を超えたのを皮切りに、粟屋・尾関山・大津の3つの水位観測所で警戒水位を超えた他、支川では南畑敷（馬洗川）、三次（西城川）、神野瀬川（神野瀬川）の各水位観測所で警戒水位を超えました。なかでも吉田水位観測所では、29日19時に計画高水位まで21cmとせまる水位7.38mを記録しました。

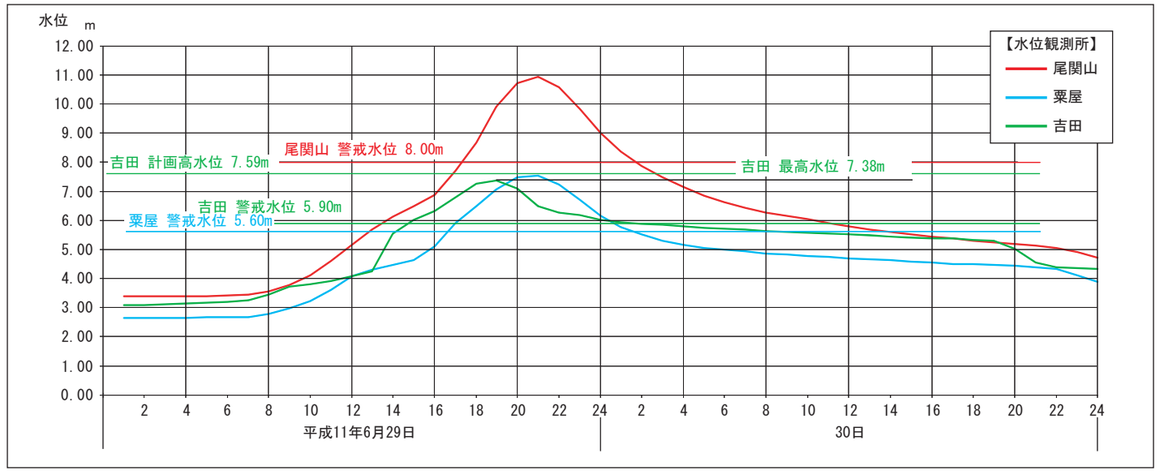


●平成11年（1999）6月29日～30日の江の川流域降雨量分布

●一般被害情報

区　分	江の川上流域	
	三次市	安芸高田市
死者（人）	0	0
行方不明（人）	0	0
負傷者（人）	0	0
床上浸水（棟）	0	1
床下浸水（棟）	43	79
全壊・流失（棟）	1	0
半壊（棟）	2	0

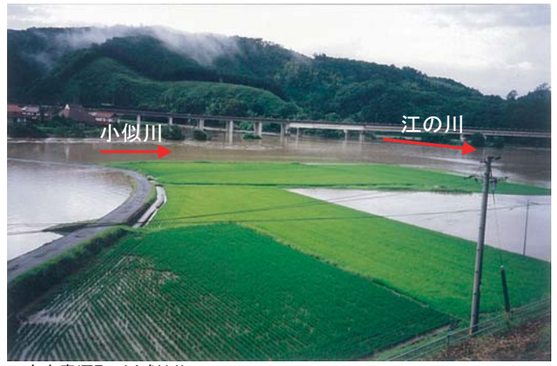
高水速報 江の川（上流） 平成11年6月29日～6月30日（三次工事事務所）



●平成11年6月豪雨の出水記録

平成11年6月豪雨　災害状況

三次市粟屋町 旭地区



三次市青河町（小似川）

古市ポンプ 高樋堰（安芸高田市吉田町 古市地区）

安芸高田市吉田町 国司地区

安芸高田市吉田町 常友地区

安芸高田市吉田町 下入江

平成18年7月豪雨　平成18年（2006）7月18日～19日

平成18年7月豪雨　概　要

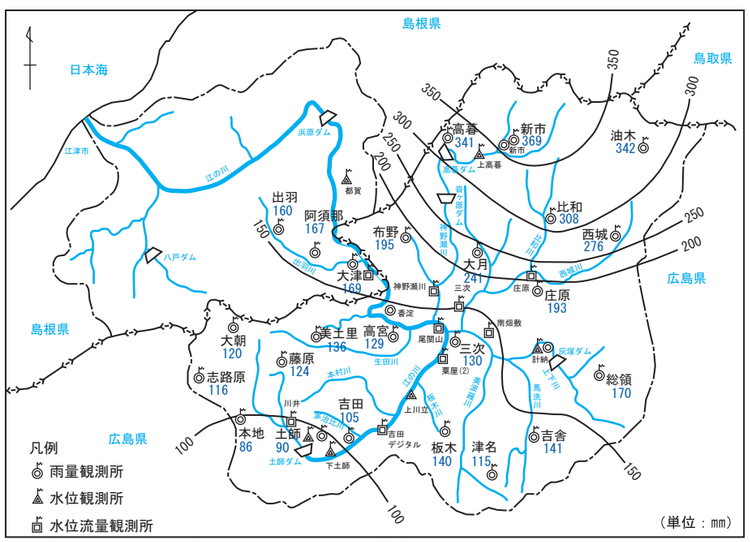
神野瀬川　神明橋より上流を望む（三次市布野町下布野）

平成18年7月18日～19日の豪雨は、日本海沿岸に南下した梅雨前線の停滞により、前線に高温多湿な空気が流れ込み続けたことによるもので、山陰を中心とする中国地方に大きな被害をもたらしました。

17日明け方から降り始めた雨は、山間部を中心に所により時間30mmを超える激しい降雨となり、神野瀬川上流の高暮雨量観測所では、日降水量が181mmを記録し、高暮雨量観測所における観測史上最高値となりました。

この梅雨前線による降水量は、深夜から明け方にかけてピークとなり、神野瀬川・尾関山の2つの水位観測所で危険水位を超えたほか、粟屋・南畑敷・三次・大津の4つの水位観測所で警戒水位を超えました。

この豪雨により、三次市や庄原市で床下浸水等の被害が発生したほか、神野瀬川で護岸が崩壊するなどの被害が発生しました。

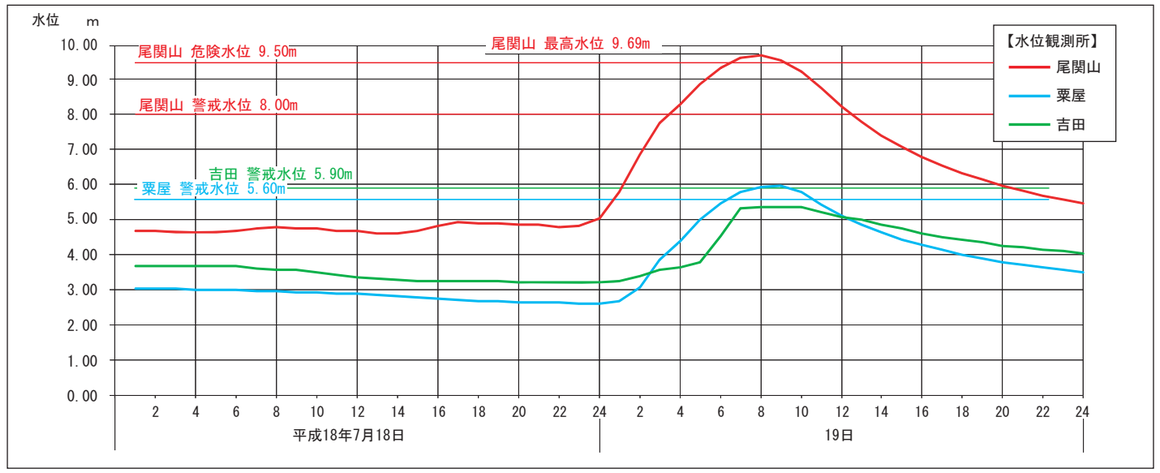


●平成18年（2006）7月17日～19日の江の川流域降雨量分布

●一般被害情報

区　分	広島県
死者（人）	0
行方不明（人）	0
負傷者（人）	0
床上浸水（棟）	2
床下浸水（棟）	98
全壊・流失（棟）	0
半壊（棟）	0

広島県：三次市、庄原市、神石高原町
7月18日からの大雨の被害状況について（最終報）（広島県）



●平成18年7月豪雨の出水記録

平成18年7月豪雨　災害状況

堤内地浸水（三次市三次町）

冠水寸前まで増水した西城川（三次市三次町太才地区）

神野瀬川 堤防の応急復旧対策（三次市三原町）

神野瀬川　護岸崩壊状況（三次市布野町下布野）

神野瀬川（三次市布野町下布野）

神野瀬川（三次市布野町下布野）

平成18年7月豪雨　災害状況

増水し水位が護岸を上回る（三次市三次町）

増水し水位が護岸を上回る（三次市布野町下布野）

道路冠水被害（三次市作木町式地区）

道路冠水被害（三次市作木町伊賀和志）

三次市作木町川毛地区（江の川）

三次市作木町川毛地区（江の川）

井手平地区整備事業の効果（三次市作木町）

三次市作木町井手平地区は、江の川本川とその右岸支流江谷川の合流部に位置しており、古くから水害に悩まされてきました。昭和47年(1972)7月の大洪水の際には、井手平地区は全体戸数40戸のうち35戸が被災し、家屋田畑への被害は激甚を極めました。

このような状況から、昭和60年度から平成3年度にかけて、地区をそのまま計画高水位(H.W.L)まで地上げして改修するいわゆる「地上げ方式」による改修事業を行いました。

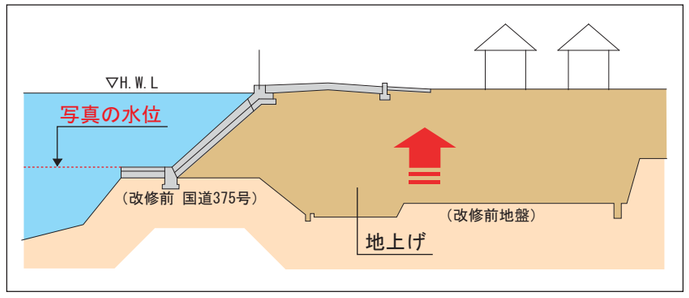
実施前（昭和59年）

実施後（平成17年6月）

平成18年7月増水時

実施後（平成23年）

平成18年7月豪雨時には、改修前の地盤付近まで水位が上昇しており、整備事業により浸水被害を回避することができました。



【改修計画 標準断面図】

平成18年台風13号 平成18年(2006)9月16～17日

平成18年台風13号　概　要

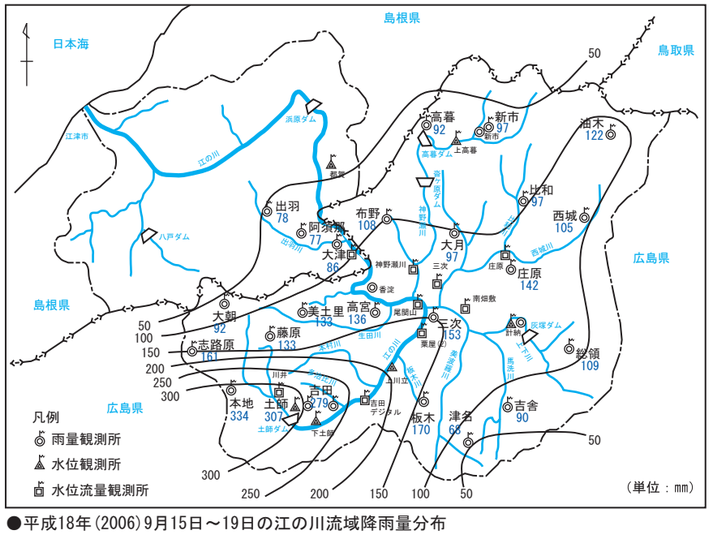
安芸高田市吉田町国司地区

平成18年9月16日～17日の豪雨は、中国地方上空に停滞していた秋雨前線に、台風からの暖かく湿った空気が流れ込み、雨雲が発達したことによるもので、広島県北西部に局地的な豪雨をもたらしました。

15日18時頃より降り始めた雨は、秋雨前線の活動が活発となった16日夕方から17日未明にかけて、県北西部を中心に所により時間60mmを超える激しい雨となりました。

秋雨前線による降水量は、16日深夜から明け方にかけてピークとなり、吉田水位観測所では計画高水位を超え、粟屋・尾関山・大津の各観測所では警戒水位を超えました。

この豪雨により、江の川本川及び支川の小似川で、護岸崩壊や河岸洗掘等の被害が発生した他、安芸高田市などでは土砂災害も発生しました。

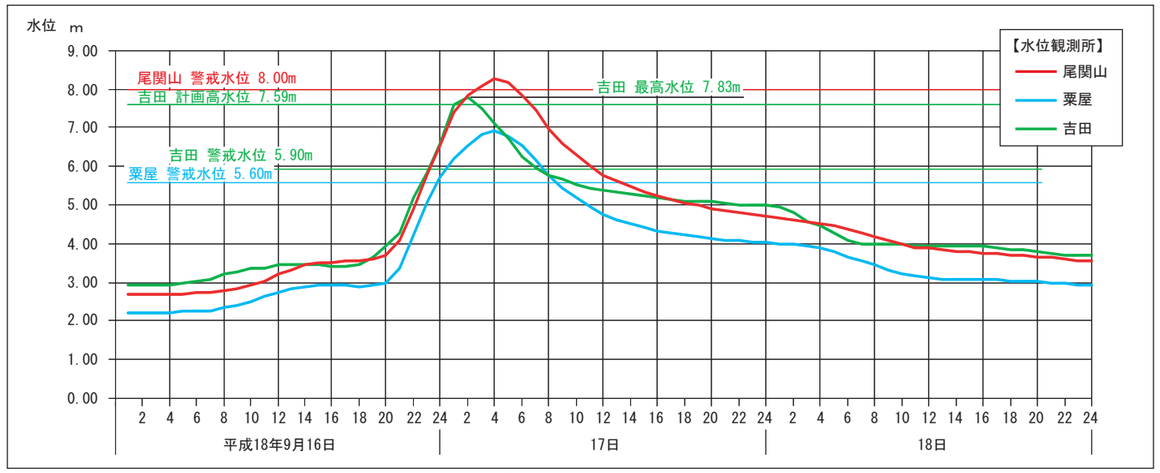


●平成18年(2006)9月15日～19日の江の川流域降雨量分布

●一般被害情報

区　分	広島県		
	三次市	安芸高田市	その他
死者(人)	0	0	0
行方不明(人)	0	0	0
負傷者(人)	0	4	1
床上浸水(棟)	2	45	10
床下浸水(棟)	28	278	86
全壊・流失(棟)	0	4	0
半壊(棟)	0	1	1

その他：庄原市、北広島町
台風13号に関する被害状況について（第16報）（広島県）

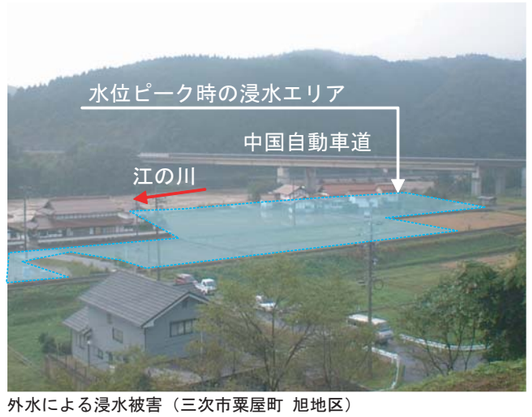


●平成18年台風13号の出水記録

平成18年台風13号　災害状況

外水による浸水被害（三次市粟屋町 米丸地区）

平常時の江の川（三次市粟屋町 米丸地区）



外水による浸水被害（三次市粟屋町 旭地区）

内水による浸水被害（三次市上志和地町）

平成18年台風13号　災害状況

増水する江の川（三次市秋町）

平常時の江の川（三次市秋町）

内水による浸水被害（三次市秋町）

内水による浸水被害（三次市上川立町 永屋地区）

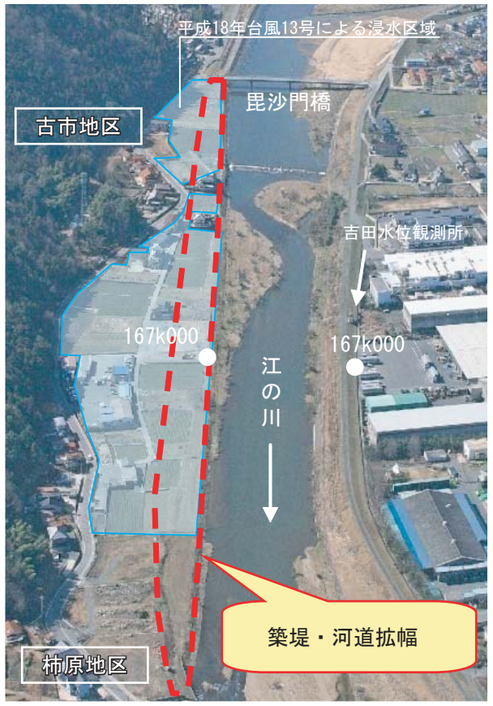
内水による浸水被害（安芸高田市甲田町深瀬）

内水による浸水被害（安芸高田市吉田町 国司地区）

古市・柿原地区の河川改修事業（安芸高田市吉田町）

【河川改修事業】

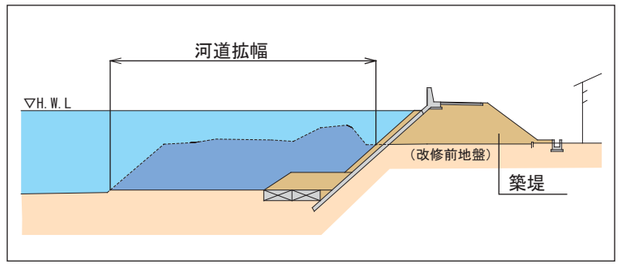
江の川沿川では昭和47年7月豪雨の大洪水により、甚大な被害が発生しました。また、その後も幾度となく水害に見舞われてきました。このため、洪水時の流量を安全に流下させるために築堤及び河道拡幅を実施し、浸水被害の解消を図っています。



■平成18年台風13号による浸水被害（古市・柿原地区）
- 床上浸水：1棟
- 床下浸水：3棟
- その他　：9棟

計 13棟の浸水被害

浸水面積：3.1（ha）



【改修計画 標準断面図】

■古市・柿原地区は、河道狭窄部で流下能力不足となっていたことから、平成18年9月の台風13号による出水時には、吉田水位観測所で計画高水位（H.W.L）を超過しました。

■築堤により古市・柿原地区の浸水被害を防止するとともに、毘沙門橋下流の狭窄部を河道拡幅することにより本川水位を低減し、上流域（常友地区）の内水被害を軽減させる効果があります。

平成22年7月豪雨　平成22年(2010)7月12日～15日

平成22年7月豪雨　概　要

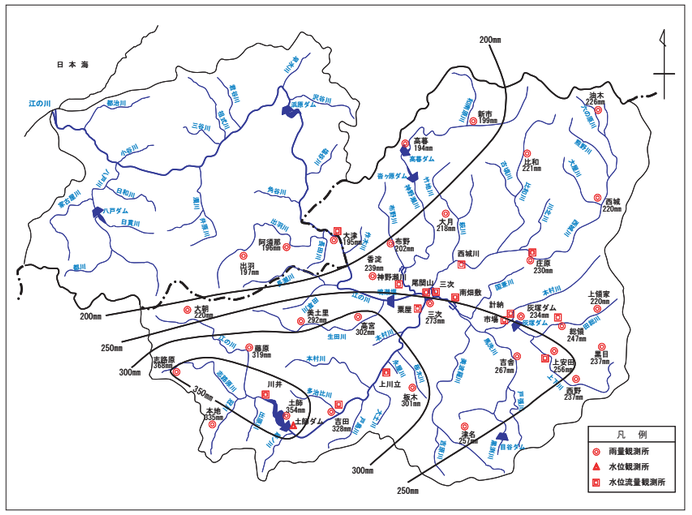
江の川の水位上昇により冠水寸前となる国道54号　（三次市西酒屋町船所地区）

平成22年7月12日～15日の豪雨は、梅雨前線によるもので、中国地方を南下した12日朝と、前線上を低気圧が東進した13日夜から14日朝にかけて、各地にまとまった雨をもたらしました。

12日から15日までの総降水量は志路原で368mm、土師で354mmとなり、本地で335mmを記録、江の川上流の志路原及び藤原雨量観測所では、最大時間50mmの非常に激しい雨を記録しました。

梅雨前線による雨は、13日の深夜から14日未明にかけてピークとなり、南敷畑水位観測所で避難判断水位を超えたほか、吉田、粟屋、尾関山の各水位観測所では、はん濫危険水位を超えました。

この豪雨により、三次市や安芸高田市などでは家屋への浸水被害等が発生しました。

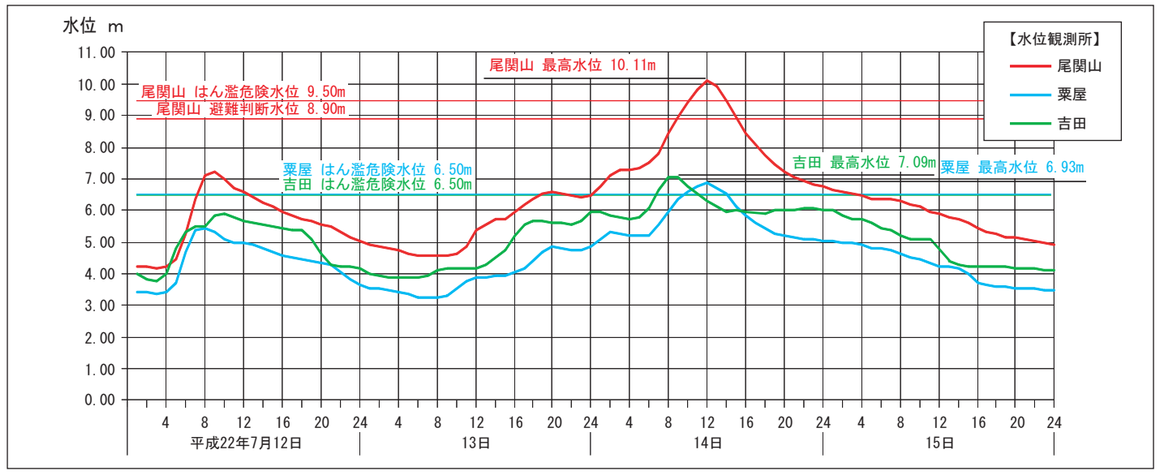


●平成22年(2010)7月12日～15日の江の川流域降雨量分布

●一般被害情報

区　分	広島県		
	三次市	安芸高田市	その他
死者(人)	0	0	1
行方不明(人)	0	0	0
負傷者(人)	0	1	1
床上浸水(棟)	3	3	3
床下浸水(棟)	39	77	47
全壊・流失(棟)	0	0	0
半壊(棟)	1	0	3

その他：北広島町、世羅町
平成22年7月の梅雨前線豪雨による被害状況等について
【平成22年9月3日現在】（広島県）



●平成22年7月豪雨の出水記録

平成22年7月豪雨　災害状況

内水による浸水被害　西城川（三次市三次町寺戸地区）

内水による浸水被害　江の川（三次市秋町）

内水による浸水被害　江の川（安芸高田市甲田町深瀬）

内水による浸水被害　江の川（三次市上川立町）

内水による浸水被害　江の川（三次市上川立町）

道路冠水被害（三次市作木町伊賀和志）

内水被害への対応

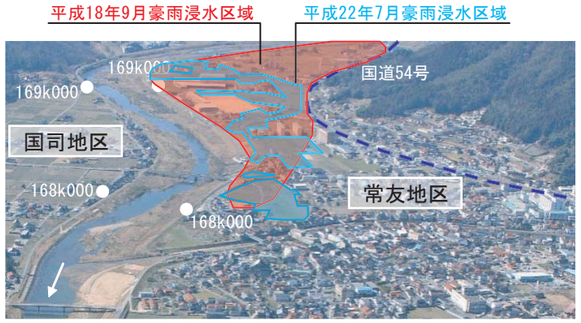
江の川では昭和47年7月豪雨を契機に築堤事業を基本とした整備を進めてきました。しかし、築堤･樋門の整備が進展し、洪水（外水）に対する安全性は向上していますが、近年の異常気象と相まって内水被害が発生しており、その対策が課題がとなっています。

近年の主な内水被害

箇所名	内水被害実績					
	年月	災害名	浸水面積（ha）	浸水戸数（戸）	床上浸水（戸）	床下浸水（戸）
秋町箇所	平成11年6月	梅雨	11ha	5戸		5戸
	平成17年9月	台風14号	5ha	2戸		2戸
	平成18年9月	秋雨	13ha	6戸		6戸
	平成22年7月	梅雨	10ha	6戸	2戸	4戸
国司箇所	平成11年6月	梅雨	4ha	8戸		8戸
	平成17年9月	台風14号	7ha	3戸		3戸
	平成18年9月	秋雨	151ha	9戸	2戸	7戸
	平成22年7月	梅雨	11ha	2戸		2戸
深瀬箇所	平成17年9月	台風14号	2ha	1戸		1戸
	平成18年9月	秋雨	23ha	24戸	11戸	13戸
	平成22年7月	梅雨	21ha	12戸	2戸	10戸
常友箇所	平成11年6月	梅雨	7ha	3戸		3戸
	平成17年9月	台風14号	3ha	1戸		1戸
	平成18年9月	秋雨	50ha	38戸	10戸	28戸
	平成22年7月	梅雨	19ha	1戸		1戸

内水被害（安芸高田市吉田町国司地区）

平成22年7月豪雨時の流量規模は、平成18年9月豪雨時と同等でしたが、排水ポンプ車による内水排除や、土師ダムの適応操作＊）による洪水調節により、常友地区の内水被害の軽減、国道54号の冠水を防止しました。

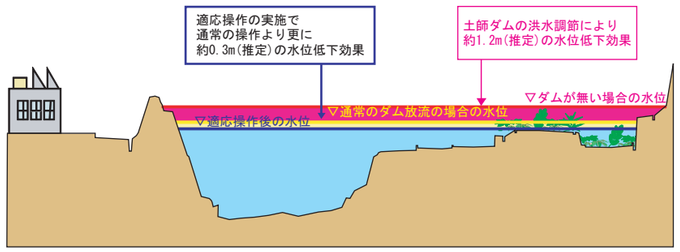


常友地区の状況

＊）適応操作とは
洪水時に下流河川の状況、今後の降雨量、ダムの空き容量等を総合的に判断し、ダムからの放流量を本来の規則より減じる操作を実施することです。

■平成22年7月豪雨時には安芸高田市からの要請により、土師ダムで適応操作を実施しました。
■土師ダムでは通常の操作より、さらに放流量を少なくし、最大流入時に約500m^3/sを貯留し、吉田地点で0.3m（推定）の水位を低下させました。

常友地区の内水被害状況（平成22年7月豪雨）



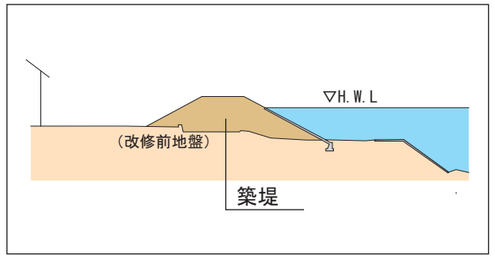
平成22年7月豪雨 土師ダムの洪水調節効果イメージ図（吉田観測所）

排水ポンプ車稼働状況（常友地区）

【近年の整備状況】旭地区における堤防整備事業（三次市粟屋町）

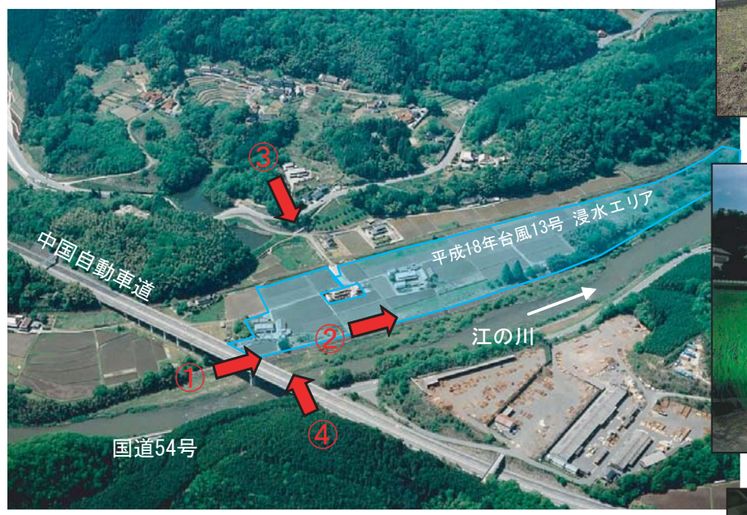
三次市街地上流の平地部では概ね堤防整備が完了していますが、旭地区は未整備であったことから、近年の洪水（平成11年6月豪雨，平成18年9月台風13号，平成22年7月豪雨等）においても、度々浸水被害が発生しています。
無堤地区であり、流下能力が不足していることから、現在堤防整備を実施中です。

現在整備中の堤防

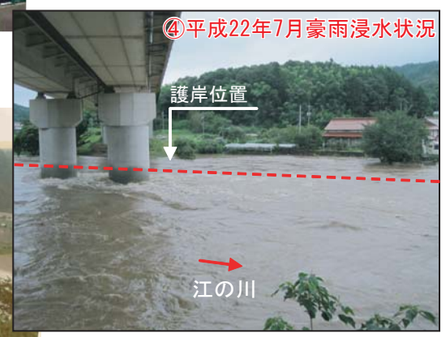


【改修計画 標準断面図】

過去の被災状況



三次市粟屋町 旭地区



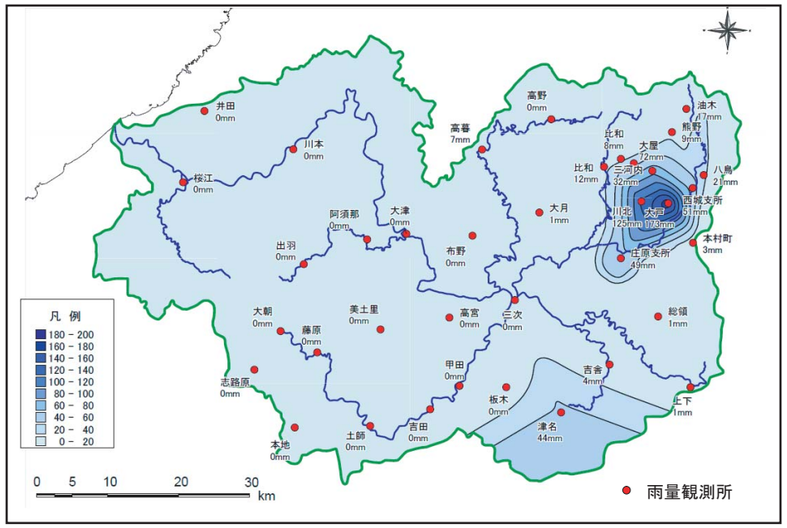
平成22年庄原市土砂災害 平成22年(2010)7月16日

平成22年庄原市土砂災害　概　要

橋でせき止められた流木（庄原市川北町重行地区）

広島県庄原市では、7月16日に、南からの暖かく湿った気流と上空の寒気の影響で大気の状態が非常に不安定となり、豪雨となりました。

庄原市東本町では、16日17時43分までの1時間に64mmの非常に激しい雨となり、昭和51年(1976)の観測開始以来、日最大1時間降水量の極値を更新しました。局地的な豪雨により、篠堂を中心とする東西約3km、南北約2kmの矩形の範囲に集中的に斜面崩壊、土石流が発生し、1人が死亡、家屋が流出する等の被害が生じました。また、大津恵川下流、篠堂川、大戸川等の河川や県道には大量の土砂や流木が堆積しました。



●平成22年(2010)7月16日 16:00～19:00 の江の川流域降雨量分布

●一般被害情報

区　分	庄原市
死者(人)	1
行方不明(人)	0
負傷者(人)	1
床上浸水(棟)	1
床下浸水(棟)	31
全壊・流失(棟)	12
半壊(棟)	12

(庄原市)

平成22年庄原市土砂災害　災害状況

県道中迫川北線 被災状況（庄原市川北町）

県道中迫川北線の流失（庄原市川北町）

大量の土砂が堆積した篠堂川（庄原市川北町）

家屋被災状況(庄原市川北町)

上重行地区の被災状況（庄原市川北町）

庄原ダム予定地の被災状況（庄原市川西町）

上川西地区の被災状況（庄原市川西町）（庄原市提供）

河川はん濫による被災状況（庄原市川西町 上川西地区）（庄原市提供）

平成22年庄原市土砂災害　災害状況

豪雨直後の先大戸地区（庄原市西城町）　（伊藤克裕氏提供）

水が引いた先大戸地区（庄原市西城町）

重機による流木撤去作業（庄原市西城町　先大戸地区）

土石流による流木散乱状況（庄原市西城町　先大戸地区）

せき止められた流木（庄原市川北町　伊予谷2号橋）　（庄原市提供）

先大戸地区の被災状況（庄原市西城町）　（庄原市提供）

被災した篠堂地区（庄原市川北町）

土砂崩れの起きた山肌（庄原市川北町　篠堂地区）

平成22年庄原市土砂災害　災害状況

護岸崩落（庄原市川北町重行地区）

現在の復旧状況

大津恵2砂防堰堤（庄原市川北町）

篠堂谷中(右3)砂防堰堤（庄原市川北町）　（庄原市提供）

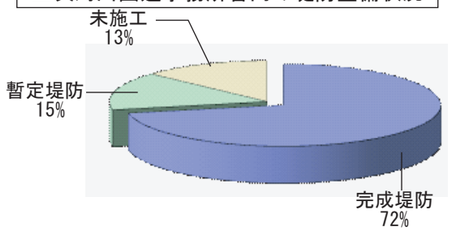
護岸復旧（庄原市川北町重行地区）

市道高川北線兼用護岸復旧（庄原市川西町上川西地区）　（庄原市提供）

江の川（上流）の治水整備

三次河川国道事務所では、昭和41年の国管理開始以降河川改修を進めていましたが、昭和47年7月洪水を契機に計画を見直し、三次市街地を中心に築堤、引堤、河道掘削、内水対策等を実施してきました。また、抜本的な治水対策として、土師ダム（昭和49年度完成）、灰塚ダム（平成18年度完成）を建設しました。

三次河川国道事務所管内の堤防整備状況



※ 暫定堤防：完成堤防に比べ、高さや幅が小さく、今後も改修が必要な堤防

灰塚ダム
（三次市三良坂町）

河川防災ステーション整備
（三次市十日市町）

内水対策：排水機場整備
（三次市十日市町）

水防災対策（三次市作木町）

堤防整備・河道拡幅
（安芸高田市古市・柿原地区）

土師ダム
（安芸高田市八千代町）

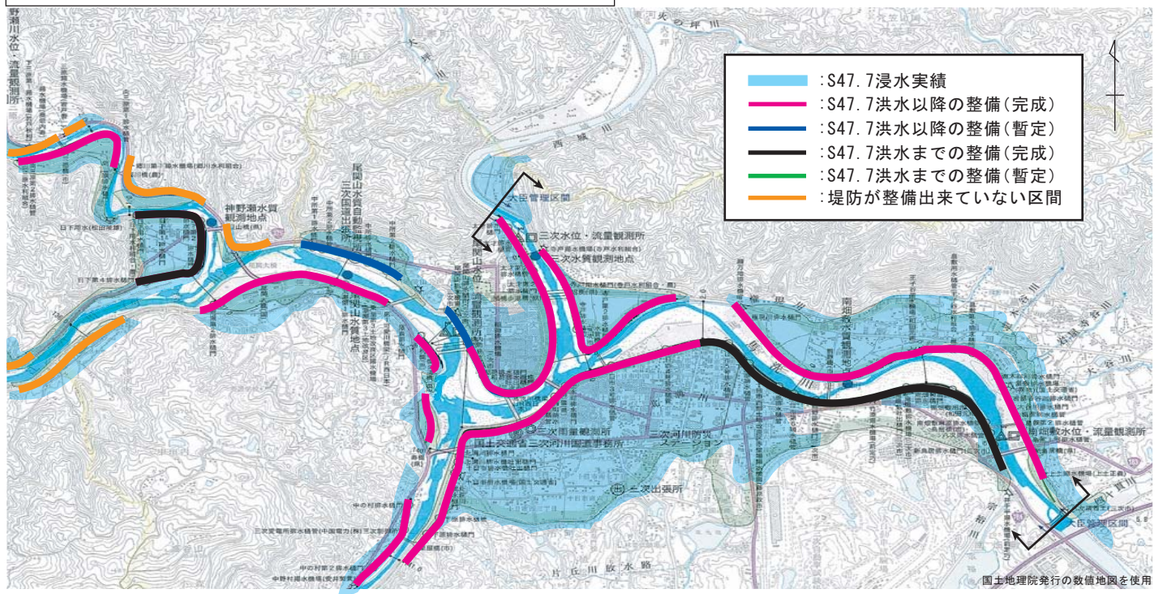
国土地理院発行の数値地図を使用

昭和４７年７月豪雨の浸水範囲と現在の整備状況

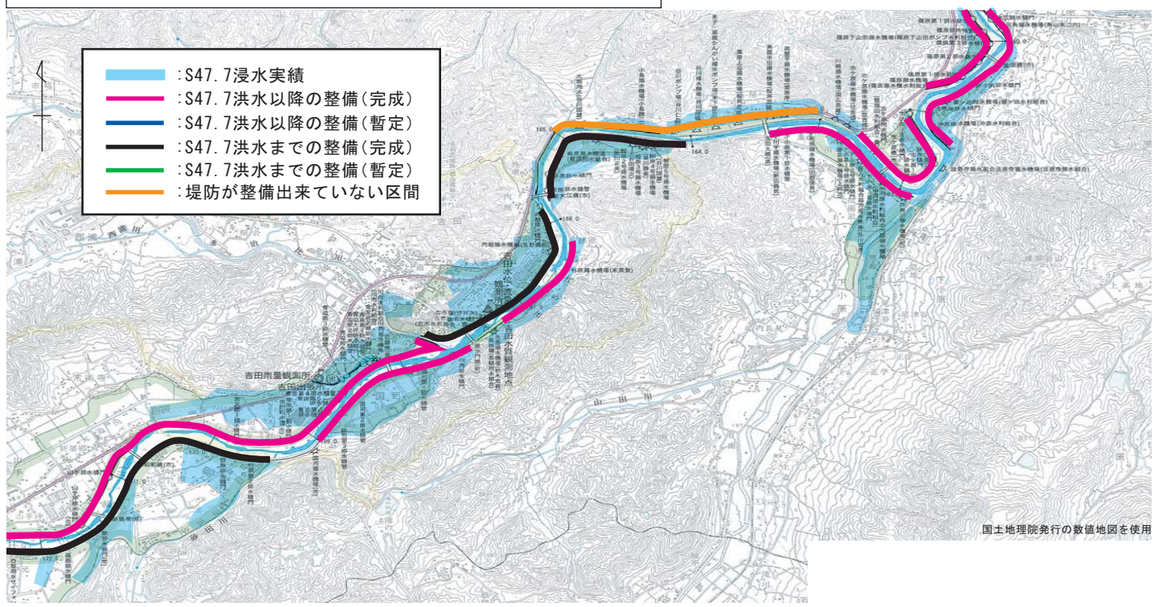
昭和47年7月豪雨に伴う三次市街地及び安芸高田市街地周辺の浸水範囲と、現在の堤防整備状況は以下に示す通りです。

三次市街地及び安芸高田市街地周辺においても、一部暫定堤防（完成断面になっていない堤防）が存在します。

昭和47年7月洪水実績浸水範囲図（三次市街地）



昭和47年7月洪水実績浸水範囲図（安芸高田市街地）

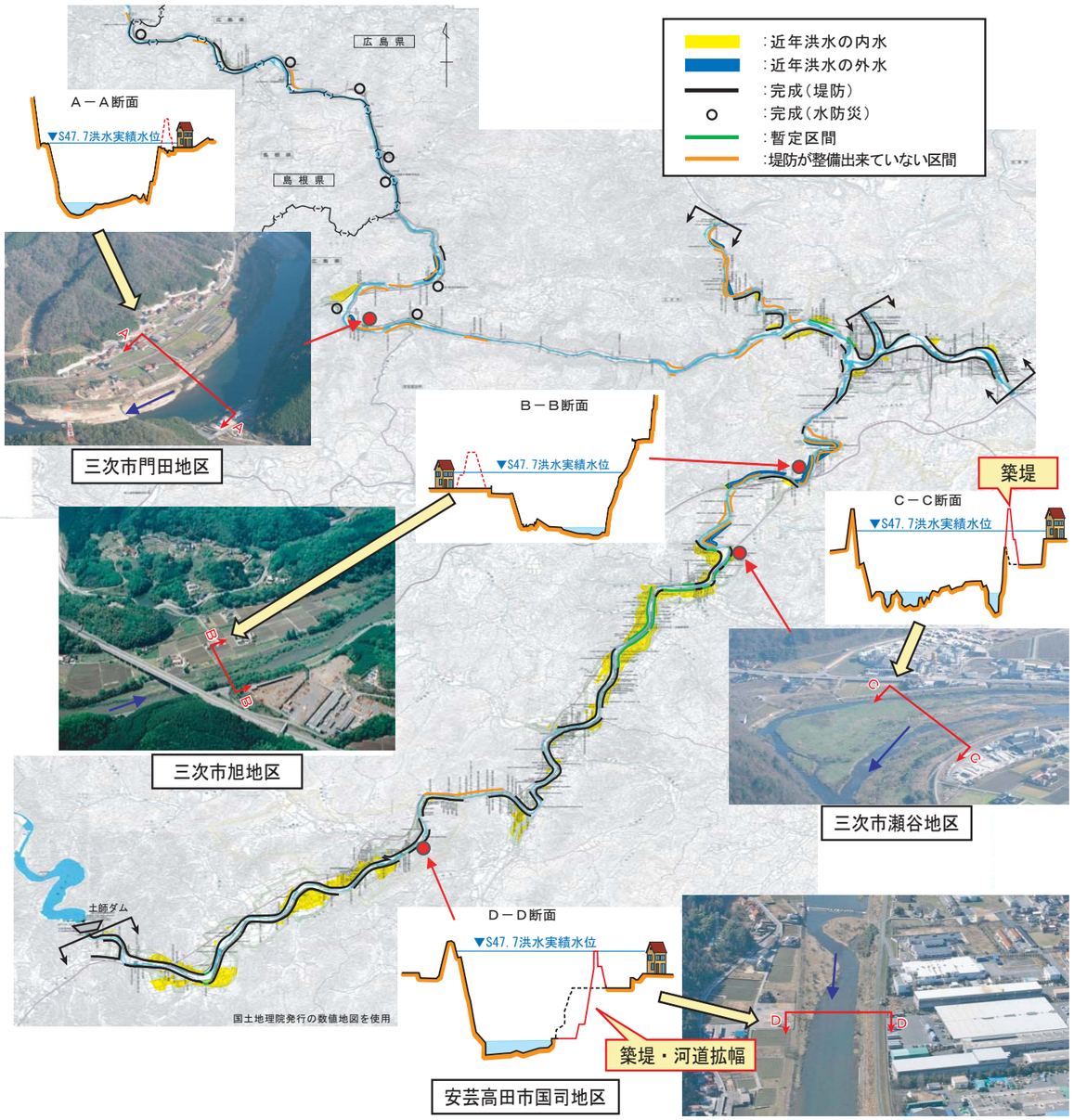


江の川（上流）の現状と今後

三次河川国道事務所管内では、昭和47年7月豪雨災害以降河川整備を進めてきました。しかしながら、一部区間において必要な堤防断面が不足しているとともに、一部地先では堤防が整備出来ていないこと等から流下能力が不足しており、平成18年9月洪水や平成22年7月洪水等近年においても洪水（外水）による浸水被害を受けています。

また、堤防整備が進み洪水（外水）による安全度が向上する一方で、内水被害の発生頻度が高くなっており、安芸高田市常友地区や国司地区、三次市秋町地区などで、平成11年6月、平成17年9月、平成18年9月、平成22年7月の洪水において内水被害が発生しています。

このようなことから三次河川国道事務所では、「地域の方々が安全で安心できる暮らしを守る」ため、関係自治体・地域と一体となって、今後も江の川の治水対策を進めていく必要があると考えています。



～防災情報～

防災情報は、以下のホームページなどで確認できます。

◆国土交通省　川の防災情報
（ﾊﾟｿｺﾝ版）　http://www.river.go.jp/
（携帯版）　http://i.river.go.jp/

◆国土交通省　中国地方整備局
（防災情報）　http://www.cgr.mlit.go.jp/saigai/saigai/index.htm

◆ＸバンドＭＰレーダー雨量情報
（ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ）　http://www.river.go.jp/xbandradar/

◆国土交通省　中国地方整備局　三次河川国道事務所
（防災情報）　http://www.cgr.mlit.go.jp/miyoshi/disaster/index.html

◆国土交通省　中国地方整備局　土師ダム管理所
（ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ）　http://www.cgr.mlit.go.jp/haji/

◆気象庁
（ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ）　http://www.jma.go.jp/jma/index.html

◆ＮＨＫ
江の川上流域の主な河川の水位と周辺の雨量情報が、ＮＨＫの地上デジタル放送のデータ放送画面で見られます。

◆広島県
（広島県防災Web：ﾊﾟｿｺﾝ版）http://www.bousai.pref.hiroshima.jp/hdis/
（広島県防災Web：携帯版）　http://www.bousai.pref.hiroshima.jp/i/

◆三次市
（ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ）　http://www.city.miyoshi.hiroshima.jp/index.jsp

◆庄原市
（ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ）　http://www.city.shobara.hiroshima.jp/index.html

◆安芸高田市
（ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ）　http://www.akitakata.jp/

過去の豪雨災害を顧みて　～江の川上流域～
昭和47年7月豪雨から40年

平成24年6月発行

編集・発行
国土交通省中国地方整備局
三次河川国道事務所
〒 728-0011
広島県三次市十日市西6丁目2番1号
TEL（0824）63-4121